

1080 | 絵画表現Ⅰ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星見講師、松村繁講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

ここでは、造形要素としての線と面の働きをテーマとして学ぶ。どのようなモチーフであっても、それをキャンバスや紙の上に表現するには、線や面などの造形要素として捉えることが重要になってくる。

モチーフを漫然と見たまま描くのではなく、画面を構成する要素として捉えた場合、実際のモチーフにはない線や面が意識されてくる。そういった画面の自由な空間構築を通して単なる再現的な表現ではない、新たな表現の展開を通信授業と面接授業を通して模索する。

課題の概要

○通信授業課題「線と面」

1-1 身の周りにあるもので、線的、面的要素として捉えやすい無機的なものを中心にモチーフを組み立て、「線」による構成を主としてクロッキーする。

1-2 「1-1」と同じモチーフを「面」による構成を主としてクロッキーする。

1-3 「1-1」と同じモチーフから「線」と「面」による空間構成を意識してデッサンする。

○面接授業課題「造形要素としての面と線の働き」

1-1 無機的なものを中心に組み合わせたモチーフを設置し、造形的要素としての「線」や「面」による空間構成を意識して、デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 2019 年度』の「絵画表現Ⅰ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（デッサン）

第 2 日 午前：制作 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科 3 年次編入学生を除く）。

[備考] 油絵学科各コース 3 年次必修科目。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

1090 | 絵画表現II

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星見講師、松村繁講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

ここでは、造形要素としての明暗と色彩の働きをテーマとして学ぶ。対象として設定した空間には、光による明暗の変化とともに、モチーフ個々の形態や色彩が生み出すフォルムなどが、相互に関わり合いながら存在している。また、モチーフだけでなくモチーフと床や壁との関係や、モチーフ相互を取り巻く空間などにも注意を払うことが必要となる。これら様々な造形要素を自分が設定した空間から感じ取り、画面上で用いられる色彩と形態の関係を、色の使い方（絵具どうしの混色や画面上での配色など）に留意して描きながら、造形的な絵画空間を構築していく。

通信授業、面接授業ともに明暗の構成と色彩の構成をテーマとして制作する。

課題の概要

○通信課題授業「明暗と色彩」

1-1 卓上の静物をモチーフに、光によって生ずる陰影の差と、モチーフ個々の色彩の明度差を同時に比較し、明暗による構成を主としてデッサンする。

1-2 「1-1」と同じモチーフを明暗と色彩の関係を意識して、水彩または油彩で制作する。

○面接授業課題「造形要素としての明暗と色彩の働き」

1-1 人物を配置し、色彩の構成を意識して、水彩または油彩で制作する。B2画用紙または20号キャンバス。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具、油彩等。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画表現I・II 2019年度』の「絵画表現II」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第2章「油彩画の素材・技法と表現」第3章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』編の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（彩画）

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「絵画I・II」または「日本画I・II」または「版画I・II」の単位を修得していること（油絵学科3年次編入学生を除く）。

[備考] 油絵学科各コース3年次必修科目。

「絵画表現I」、「絵画表現II」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講が出来ない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版社 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版社 2002年）

学習指導書：『絵画表現I・II 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1100 | 複合的表現Ⅰ

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師

授業の概要と目標

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。

通信授業ではフォト・コラージュによる「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作とし、面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

課題の概要

○通信授業課題「フォト・コラージュ」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について 200～400 字で解説をする。

○面接授業課題「内的空間の表出」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。2 種類のドローイング（A：音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら B：自分の内的世界を探りながら）を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品（写真、手紙、小物など）を加え、自己の内的世界を表現する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『複合的表現Ⅰ・Ⅱ 2019 年度』の「複合的表現Ⅰ」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及びドローイング	午後：ドローイング
第 2 日	午前：ドローイング	午後：中間講評及び立体制作
第 3～5 日	午前：立体制作	午後：立体制作
第 6 日	午前：立体制作	午後：立体制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「絵画表現Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 油絵学科各コース選択科目。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005 年）

学習指導書：『複合的表現Ⅰ・Ⅱ 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

1110 | 複合的表現II

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師

授業の概要と目標

「場所と観察と表現」をテーマとする。ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してやることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。この様な経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。

通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とし、面接授業では平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

課題の概要

○通信授業課題「場所と観察と表現」

1-1 スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、配置しない場合の状態をクロッキーする。

1-2 「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから 1 点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。また、作品について 200～400 字で解説する。

○面接授業課題「場所から生まれるもの」

1-1 「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。また、ドローイングから実制作にいたる過程を写真で記録しながら、記録集を作成する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『複合的表現I・II 2019年度』の「複合的表現II」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第2章「油彩画の素材・技法と表現」、第3章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第1日	午前：前提講義およびドローイング	午後：ドローイングおよび場所選び
第2～4日	午前：制作	午後：制作（中間指導）
第5日	午前：制作	午後：制作および記録集制作
第6日	午前：記録集制作	午後：採点・講評・撤去作業

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 「複合的表現I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科各コース選択科目。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『複合的表現I・II 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1810 | 卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師

授業の概要と目標

卒業制作は通信教育課程での基礎的な造形学習の総まとめであると同時に、卒業後の創造活動を方向付けるスタート地点でもある。そのためにも結果を恐れず、それまでの学習体験を活かし、各々の資質にあった表現に向けての、精一杯悔いのない制作が望まれる。また、デッサンやエスキース等を積み重ねながら、テーマを絞り込み、それを画面にどのように組み立てて行くか、しっかりと手順を踏んで制作することも大切である。

課題の概要

自主制作2点を制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。支持体は自由で、サイズは80～100号。壁面に取り付け可能で、厚さ15cm以内とする。描画材は油彩等、その他自由。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019年度』の「卒業制作」、教科書『絵画—素材・技法—』『絵画—アートとは何か—』『複合的表現—絵画からの展開—』を参照し、制作を進める。

[面接授業]

卒業制作における中間指導として、制作途中の作品を基にした指導を中心に、エスキース指導、制作工程計画、技術的問題、各種絵画的対処法等の指導を受けながらの制作。

- | | | | |
|-----|-------|-------------|-------------|
| ・前半 | 第1～2日 | 午前：制作及び中間指導 | 午後：制作及び中間指導 |
| ・後半 | 第3～4日 | 午前：制作及び中間指導 | 午後：制作及び中間指導 |

成績評価の方法

卒業制作提出作品、面接授業、講評の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・絵画コースに在籍していること。
- ・絵画コース3年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。
- ・「絵画Ⅵ」、「絵画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科絵画コース4年次必修科目。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1820 | 卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

重政啓治教授、内田あぐり教授、尾長良範教授、西田俊英教授、山本直彰教授、岩田壮平准教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

日本画の素材を使い自己の表現したいものをテーマに、学習の成果で得たものを十分出し、新しい日本画の可能性を示唆するような姿勢で、自己にとっても今後の指針を示せるような制作を行う。

課題の概要

日本画の素材を使つての作品制作2点とする。通信授業・面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。描画材は日本画絵具。支持体は自由で、サイズは80～100号。壁面取り付け可能な木製パネルとする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019年度』の「卒業制作」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

[面接授業]

卒業制作における中間指導として、下図指導、制作工程計画、技術的問題等の指導を受けながら制作をする。

・前半	第1日	午前：前提講義及び中間講評	午後：制作
	第2日	午前：制作	午後：制作
・後半	第3日	午前：前提講義及び中間講評	午後：制作
	第4日	午前：制作	午後：制作

成績評価の方法

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・日本画コースに在籍していること。
- ・日本画コース3年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。
- ・「日本画Ⅵ」、「日本画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科日本画コース4年次必修科目。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

学習指導書：『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

1830 | 卒業制作

6 単位（通信授業 4 単位、面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

授業の概要と目標

版画コースの教育課程においては、技術研究、材料研究を行い、各自のテーマに沿った版表現を考察してきた。「卒業制作」では、これをさらに深めてオリジナリティを導き出すことに取り組み、これまでの学習成果を十分に出し切る制作が求められる。総まとめであると同時に卒業後の創作の基盤になり、活動展開を方向付ける重要な科目でもある。結果を恐れず、これまでの学習体験を活かし、各々の資質に合った表現に向けて、精一杯悔いのない制作が望まれる。

課題の概要

4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から 1 版種を選択し、版画作品 5 点以上又はそれに相当するものを制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019 年度』の「卒業制作」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

[面接授業]

卒業制作における中間指導として、模擬展示によるドローイング指導、制作工程計画、技術的問題、展示形態等の指導を受けながらの制作。

・前半	第 1 日	午前：下図を用いた模擬展示及び中間講評	午後：制作
	第 2 日	午前：制作	午後：制作
・後半	第 3 日	午前：制作及び中間指導	午後：制作
	第 4 日	午前：制作	午後：制作

成績評価の方法

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・ 版画コースに在籍していること。
- ・ 版画コース 3 年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051 の特例を除く）。
- ・ 「版画Ⅵ」、「版画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

課題制作に必要な設備・機材を使用できる環境にあること。

教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

学習指導書：『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）